

「異常気象講演会」

平成27年3月18日（水） / 産業貿易センター

防災委員会

近年の短時間集中豪雨等、災害に結びつく極端な気象状況を、早めに察知するヒントを得るため、独立行政法人 防災科学技術研究所 観測・予測研究領域水・土砂防災研究ユニット長、岩波 越 氏から講演を受けた。講師はレーダー気象学が専門で、予測した情報は自治体への展開もされていた。

講演では、近年災害時の単位面積当たりの被害額が大きい都市型災害が増加しており、2000年の東海豪雨では、水没で自動車部品が供給停止し、自動車生産が滞り、大きな間接被害となった事も紹介された。また局地的豪雨の基となる、積乱雲の発生と成長の仕組み、検知方法等についての解説や、

過去に神戸で発生した、短時間で河川が増水し人災となった、都市型水害の状況について映像を基に解説された。講演終了後は活発な質疑応答が交わされた。

